中国の言語と文化

Concerning Language and Culture in China

高橋弥守彦
TAKAHASHI Yasuhiko

内容提要

中国有“天地”“男女”“山水”等“对称文化”，而日本有「三人寄れば文殊の知恵」「大坂五人衆」「七人の侍」等使用奇数的“不对称文化”。汉语的基本句型为 SPO，日语为 SOP。因此，二者的关系按理说应该是比较简单的。然而，受中国“对称文化”的影响，汉语中连述句和兼语句等的日译问题绝非简单，需要推敲。比如以下连述句。

（1）父亲茫然四顾时才发现儿子并未出门，而是坐在他身后看书。（『人民』88－8－100）
父親は力無げにあたりを見回した。息子は出かけてはいなかったのだ。しかも、彼のうしろで本を読んでいる。（同上）

（2）舅妈对姥姥极好，照顾得周到细致挑不出半点毛病。（『人民』91－1－96）
おばは祖母にとても親切で、少しの欠点もないくらい、キメ細かに面倒見てくれる。（同上）

（3）上班到公司，发现科里的小郭有点闷闷不乐。（『人民』96－4－87）
会社に出ると、同僚の郭君が浮かない顔をしていた。（同上、96－4－86）

（4）但突然有一天，她接到一封电报。说他出差在外，不幸遇车祸。（『人民』96－11－85）
ある日、突然彼女宛に一通の電報が届いた。彼が出張先で交通事故に遭ったというのだ。（同上、96－11－84）

（5）接下来我上大学干工作，娶妻生子，生活和事业一帆风顺。（『人民』97－5－87）
その後、僕は大学を出てちょっとした仕事につき、結婚して子供も生まれ、生活も仕事も順調だった[1)]。（同上）

地道的日语并不是将以上的“坐在他身后看书”“周到细致挑不出半点毛病”“上班到公司”“出差在外”“上大学干工作”这些短语译成［彼のうしろに座って本を読んでいる］［周到緻密で少しの欠点もないくらい］［出勤して会社に出ると］［出張し他郷で］［大学に入って仕事に就き］，而是要顺从日本的不对称文化翻译成［彼のうしろで本を読んでいる］［少しの欠点もないくらい、キメ細かに］［会社に出ると］［出張先で］［大学を出てちょっとした仕事につき］。可以说将汉语的对称文化的句子译成日语时 ，往往是不对称的。这一点不容忽视。

---

1) 例（5）の原文と訳文は、比較をすると分かるが、中日両国の実情に合わせて表現され訳されている。そのため、原文と訳文とに若干のずれがある。特に“生活和事业一帆风顺”は紛らわしいが、訳文の［生活も仕事も順調だった］より、［仕事も生活も順調だった］と訳すほうが、日本の実情に合っているだろう。

キーワード：SPO 構造　SOP 構造　対の文化　非対の文化　リズム

目次

1. はじめに
2. 中日両国の言語と文化
3. おわりに

1. はじめに

中日両言語の基本的な文構造は、「SPO 文型」と「SOP 文型」[2)]とである。また、中国には「対の文化」があり、日本には「非対の文化」[3)]がある。中日両国の文構造と文化とは、いったいどのような関係になっているのであろうか。言語表現におけるこれらの典型は、中国の四字語や成語と日本の俳句や短歌とであろう。

日本語の人名などにも、伝統的には「御三家」「白波五人男」「風車の弥七」「新門辰五郎」や「総領の甚六」「八兵衛」などの奇数と偶数の大まかな区別がある。御三家は橋幸夫・舟木一夫・西郷輝彦であり、当時のトップスターである。日本の長者番組の一つ『水戸黄門』にも、その傾向が顕著に表れている。たとえば、前記の人名に奇数の入っている人物「風車の弥七」は、いざというとき以外、あまり前面には出ないが、どちらかというと弱者の見方であり、偶数の入っている人物「八兵衛」は、うっかり者で物語の盛り立て役である。この二人が日本の奇数と偶数の大まかな特徴を表しているであろう。

漢字は一般に「偏」と「旁」からできている。日本の漢字は、中国の漢字の影響を強く受けている。そのため、中国の漢字であれ、日本の漢字であれ、漢字の「偏」は、同じ偏を用いている漢字であれば、共通の「意味」を表し、「旁」は共通の「音」を表す。たとえば、サンズイを用いている「海、江、汗」は、いずれも水と関係があり、また、「偏食、遍歴、編曲」などの各単語の 1 文字目の左側のツクリは、共通の音「ヘン」を表している。

---

2) 中日両言語の基本的文構造は、「SVO 文型」と「SOV 文型」と言われているが、「V」には動詞だけでなく、次の文のように形容詞“多”が使われる場合もあるので、筆者は「P」を使っている。なお、この“多”は動詞という学説の方が一般的である。

安谧的街心便又多了一座洁白的塑像。(『人民』97－2－87)

静かな平和な夜の街に、もう一つ雪だるまが大きくなっていった（※増えた)。(同上)

3) 日本語の人名などにも、「三羽烏」「風車の弥七」や「八兵衛」「総領のなど甚六」の奇数と偶数の区別がある。日本の長寿番組の一つ『水戸黄門』にも、その傾向が顕著に現れている。たとえば、人名に奇数の入っている人物「風車の弥七」は、どちらかというと弱者の見方であり、偶数の入っている人物「八兵衛」は、物語の盛り立て役である。

漢字は、多くの場合一般的に「ヘン」と「ツクリ」で１文字を作っている。漢字にも中国の「ヘン」と「ツクリ」からなる「対の文化」による基本がある。

例（6）の原文は「SPO」構造からなる単文、例（7）の原文は「SPO」構造と「PO」構造の２つの分文からなる複文である。

（６）她和他是青梅竹马。(『人民』96－11－85)
ふたりは幼なじみだった。(同上、96－11－84)

（７）但他们仍住在同一个城市，仍生活在同一片云彩下。(『人民』96－11－85)
だがふたりは依然として同じ空の下の、同じ町で暮らしていた[4)]。(同上、96－11－84)

例（6）の原文は、典型的な「S（“她和他”）P（“是”）O（“青梅竹马”）」構造の文である。訳文も「S（[ふたりは]）O（[幼なじみ]）P（[だった]）」構造と言えるだろう。例（7）の原文と訳文は述部の語順が逆になっている。中国語の語順は、空間的に近遠（“城市”“云彩”）だが、日本語は遠近（[空]［町]）である。これらで訳す語順は、中日両言語の表現に沿った優れた原文と訳文と言える。

これらは中国語の「SPO 文型」と日本語の「SOP 文型」との違いが主たる問題であり、それに中日両言語の習慣的な表現上の違い[5)]だが、以下に挙げる中国語の翻訳は、さらに複雑である。

2. 中日両国の言語と文化

既述のように、中日両言語が「SPO 文型」と「SOP 文型」との違い、および習慣的な違いだけであれば、翻訳はさほど難しくないだろうが、さらに複雑な問題が入ってくる。

（８）新婚翌日，阿浓妻小洁买回了六双拖鞋，放在门口。(『人民』94－1－93)
翌日、妻の小潔は六足のスリッパを買って来て、入り口に置いた。(同上、94－1－92)

---

4)「名前」と「住所」も中日両言語では、以下のように語順が異なる。
医生们把她当成他的配偶，因为昏迷前他仅仅说出她的地址和姓名。(『人民』96－11－85)
医者たちは彼女を彼の奥さんだと思った。というのも、昏睡状態に入る前に　彼がか細い声でつげたのが彼女の名前と住所だったのだ。(同上、96－11－84)

5) 例（7）に挙げる空間的な語順や注４）に挙げる「名前」と「住所」の語順などをいう。ただし、習慣的な違いは下記の例文に見られるように、かなり難しい場合もある。
古兵怔住了，木偶般地看着她笨重的身子在水里一沉一浮。(『人民』91－2－96)
グービンはきょとんとして彼女の重いからだが水中に沈んだり浮かんだり（筆者訳※浮かんだり沈んだり）しているのを、まるででくのぼうのようにながめている。(同上、91－2－96～97)

（９）无声的雪花，如银如絮，立刻盖住了这对拥抱着的父子。（『人民』97－2－87）
銀のような綿[6)]のような雪が音もなく降ってきて、抱き合った親子をたちまち包み込んだ。（同上）

（10）婚后数日，连安安本人也怀疑，这是否是一个神奇的梦？（『人民』89－7－99）
結婚後の数日は、安安自身もこれはふしぎな夢ではないかと疑っていた。（同上、89－7－100）

例（8）（9）（10）の客語は、それぞれ“六双拖鞋”“这对拥抱着的父子”“这是否是一个神奇的梦”であり、構造は異なる。

2.1. 類義語重複（単語［連語］の意味）

中国語は一般的に言えば、文中では類義語の重複が多い。それに反し、日本語は少ない。原文も訳文も大体その通りである。以下の実例によって、その理由について、調査してみよう。

（11）那次之后，姥姥便再没有提她的绿玉手镯，舅妈伺候姥姥一如从前一样体贴细致，只是姥姥的神态中少了先前那种受之泰然的成份。（『人民』91－1－97）
それからは、祖母は二度と緑玉の腕輪のことを口にしなかった。おばも前と同じように、やさしく、かゆいところまで手の届くような世話をしてくれた。ただ、祖母の表情を見ていると、前にあった「モノがあるからよくしてくれているんだという安心感」が、いくらかでもなくなっていたようだった。（同上）

（12）有次，小洁出差不在家，阿浓邀了几个朋友来家小聚，似乎意在弥补什么。（『人民』94－1－93）
ある日、小潔が出張で家をあけた。阿濃は、なにがしかの埋め合わせにとばかりに、友達を数人よんでささやかな会をもよおした。（同上、94－1－92）

（13）但突然有一天，她接到一封电报。说他出差在外，不幸遇车祸。（『人民』96－11－85）
ある日、突然彼女宛に一通の電報が届いた。彼が出張先で交通事故に遭ったというのだ。（同上、96－11－84）

（14）一路上多多沉默寡言，他知道自己做错了事。（『人民』89－1－99）
歩きながら、多多はだまったままだ。自分が悪いことをしたのを知っていたからだ。（同上）

（15）她变得心灰意冷。（『人民』88－9－97）
彼女はすっかり気落ちしてしまった。（同上）

（16）一声撕心裂肺的呼唤，“琴——”（『人民』88－9－98）
「琴——」胸も張りさけるばかりの叫びがあがった。（同上）

6）“絮”は、“柳絮”「柳絮」のことである。「柳絮」は、中国人はよく知っているが、日本人にはあまり馴染みがないので、「綿」と訳している。これも名訳である。

（17）舅妈对姥姥极好，照顾得周到细致挑不出半点毛病。（『人民』91－1－96）
おばは祖母にとても親切で、少しの欠点もないくらい、キメ細かに面倒見てくれる。（同上）

（18）上班到公司，发现科里的小郭有点闷闷不乐。（『人民』96－4－87）
会社に出ると、同僚の郭君が浮かない顔をしていた。（同上、96－4－86）

中国語の原文例（11）は、類義語の重複“体贴［思いやる、気を配る］细致［緻密である、精緻である］”であり、（12）は類義する語句などの重複“出差［出張する］不在家［在宅していない］”であるが、どちらの語句も訳されている。しかし、例（13）から（18）までは“出差在外”［出張先で］“沉默寡言”［だまったままだ］“心灰意冷。”［すっかり気落ちしてしまった］“撕心裂肺”［胸も張りさけるばかり］“周到细致”［キメ細かに］“上班到公司”［会社に出ると］は、どちらか一方の単語や連語しか訳されていない。

中国語は一般的に言えば、重複することにより文意が分かり易くなるが、日本語は冗漫になる傾向にある。たとえば、例（12）の“出差不在家”［出張で家をあけた］と例（13）の“出差在外”［出張先で］を比較してみよう。例（12）は［出張した］、例（13）は［出張した外出先で］と訳しても、どちらも基本的な意味は訳されているので、大きな問題とはならないであろう。しかし、文全体を見てみると、筆者の訳より訳文のほうが、意味が分かり易いので、やはり優れている。どちらに訳した方がいいかは、中国語と日本語の特徴をつかみ、文と段落全体を見て訳してみるべきであろう。

（19）大约十五六平方米的屋子里，摆一张双人床，一张单人床。一张占地不大的学生桌，桌上放着元元的课本和作业。（『人民』97－2－87）
十五、六平方メートルはあろうかという家の中は、ダブルベッドとシングルベッドが一つずつ、それに小型の勉強机がところせましと置かれ、机の上には息子の元元の教科書とノートが積まれている。（同上、97－2－87）

（20）后来老孙头给自己派了个活，每天早晨四点钟起床，把这条二百多米长的小胡同打扫得干干净净，然后回到院里，再把院子扫净。（『人民』88－5－90）
そのうち、孫老人はやることを自分で決めた。毎朝四時に起き、二百メートルの路地をきれいに掃いたら、庭に戻って中庭を清掃する。（同上）

例（19）の“大约十五六平方米的屋子里”は［十五、六平方メートルはあろうかという家の中は］と訳され、例（20）の“这条二百多米长的小胡同”は［二百メートルの路地］と訳されている。例（19）は［十五、六平方メートル］と訳され、具体的な数字を明示してあるので、「約」は使えない。「約」を使うのであれば、［約十五平方メートルはあろうかという家の中は］と訳さなければならないであろう。例（20）は［二百メートルの路地］と訳され、“长”が訳されていない。具体的な数字［二百メートル］を明示してあるので、“长”を訳すと、「長さ」が二重訳に近い表現になってしまう。

（21）我心灰意疏，收拾了笔墨纸砚，打算与十年寒窗告别。娘说:“再试一年吧。”（『人民』97－5－87）

すっかり落ち込んだ僕は、勉強道具を片付けて、十年以上にわたった学校生活におさらばしようと思ったのだが、おふくろが「もう一年頑張れ」という。(同上、97－5－86)

※“我心灰意疏，收拾了笔墨纸砚，打算与十年寒窗告别。”は原文と訳文の語順に注意。

(22)父亲茫然四顾时才发现儿子并未出门,而是坐在他身后看书。(『人民』88－8－100)

父親は力無げにあたりを見まわした。息子は出かけてはいなかったのだ。しかも、彼のうしろで本を読んでいる。(同上)

父親が何気なくあたりを見まわすと、息子は自分のうしろで本を読んでいる。(同上)

例（21）と（22）では原文“与十年寒窗”“发现儿子并未出门，而是坐在他身后看书”と訳文［十年以上にわたった学校生活］［息子は出かけてはいなかったのだ。しかも、彼のうしろで本を読んでいる（息子は自分のうしろで本を読んでいる)］に若干のずれがある。これは国の実情やリズムによって表現されているからである。

３．おわりに

中文日訳だけでなく翻訳全般では、上掲の原文と訳文のように、意味を中心とする単語や連語、それに文などによって訳すのが一般的だろう。しかし、例（19）(20）のように、中日両言語の表現の違い“大约十五六平方米的屋子里”［十五、六平方メートルはあろうかという家の中は］、“这条二百多米长的小胡同”［二百メートルの路地］もある。これらの表現は、各言語の特徴を学んでおかなければならないだろう。

また、中文日訳では、例（21）のように、日本語の語順を若干変えて訳す場合がある。これも中国語の語順は、一般に主語＋述語“我心灰意疏”だが、日本語は文や段落の語順［すっかり落ち込んだ僕は］によって訳すからである。

言語資料

1.『人民中国』ショートショート　人民中国雑誌社　1988～1997
2.『人民中国』楽らく対訳　人民中国雑誌社　2014～2017
3.『人民中国』ショートショート　人民中国雑誌社　2018～

参考文献

日本語文献

1. 荒川清秀（2015)『動詞を中心にした中国語文法論集』白帝社
2. 鈴木康之（2000)『日本語学の常識』海山文化研究所
3. 鈴木康之（2011)『現代日本語の連語論』日本語文法研究会
4. 朱徳熙著 杉村博文・木村英樹訳（1995)『文法講義』白帝社
5. 高橋弥守彦（2001)「動補連語“走出来”について」『外国語学研究第 2 号』大東文化大学

大学院外国語学研究科
6. 高橋弥守彦（2006）『実用詳解中国語文法』郁文堂
7. 高橋弥守彦（2017）『中日対照言語学概論―その発想と表現―』日本僑報社
8. 高橋弥守彦（2020）『中日翻译学的基础与构思―从共生到共创』外语教学与研究出版社
9. 松村達夫（1978）『翻訳の論理　英語から日本語へ』玉川大学出版部
10.丸尾誠（2014）『現代中国語方向補語の研究』白帝社
11.李臨定著／宮田一郎訳（1993）『中国語文法概論』光生館

中国語文献

1. 丁崇明（2009）《现代汉语语法教程》北京大学出版社
2. 耿二岭（2010）《汉语语法》北京语言大学出版社
3. 梁鸿雁（2004）《HSK 应试语法》北京大学出版社
4. 卢福波（2011）《对外汉语教学实用语法》北京语言大学出版社
5. 陆庆和（2006）《实用对外汉语教学语法》北京大学出版社
6. 单宝顺（2011）《现代汉语处所宾语研究》中社会科学出版社
7. 徐昌火（2005）《征服 HSK 汉语语法》北京大学出版社
8. 杨德峰（2004）《汉语的结构和句子研究》教育科学出版社